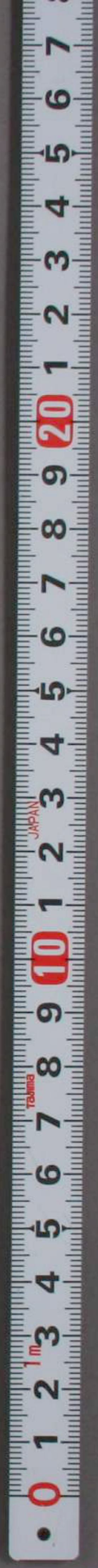


河内名所圖會

三

JL 4
3540
3



ル 4
3540
3

十力弥

河内名所圖會卷之三目錄

古市郡

譽田八幡宮
 石及橋
 長海八幡宮
 粟家山
 大坂山
 善法寺跡
 白鳥凌
 惠我我市
 高屋神社
 輕皇子墓
 駒谷 蹴田
 當摩任踰
 麻福田丸古蹟
 西琳寺
 惠我我川
 高屋古城
 利雁神社
 杜本神社
 飛鳥山
 古塚
 安閑天皇陵
 實壽寺
 戸苜池
 金剛輪寺
 飛鳥川
 物部飛鳥
 山田皇女墓
 清寧天皇墓
 井徳院
 飛鳥戸神社
 飛鳥戸造
 應神天皇陵
 觀音堂
 龍池
 飛鳥山
 流鏑馬跡
 長野山
 觀音堂
 龍池
 安閑天皇陵
 實壽寺
 戸苜池
 金剛輪寺
 飛鳥川
 物部飛鳥
 山田皇女墓
 清寧天皇墓
 井徳院
 飛鳥戸神社
 飛鳥戸造
 應神天皇陵
 觀音堂
 龍池
 飛鳥山
 流鏑馬跡
 長野山
 觀音堂
 龍池
 安閑天皇陵
 實壽寺
 戸苜池
 金剛輪寺
 飛鳥川
 物部飛鳥
 山田皇女墓
 清寧天皇墓
 井徳院
 飛鳥戸神社
 飛鳥戸造

らるがき
は月拾

尼野貴英氏

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏



譽田の
磨板治
は地の名地
みくひり
よりあゆ
これ
軍神の
霊
いづく
ままひ

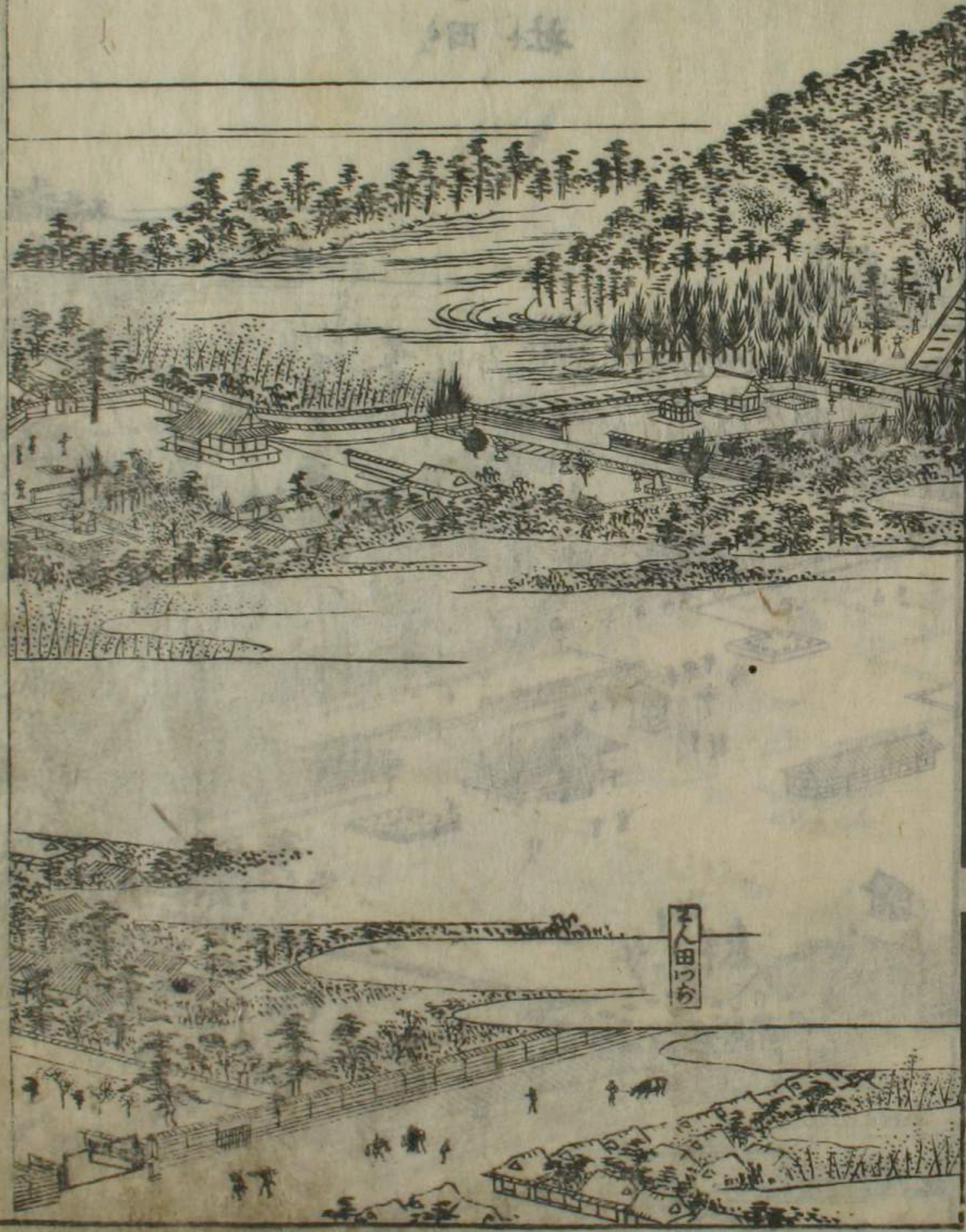
飛鳥假宮
壺井八幡宮
本堂
頼信墳
安宿郡
觀音堂
香爐峯
神寶
鎮守
大黒寺
壺井水
上社
通法寺
頼義魂舎
大黒石

片敷山
行者堂
開山堂
玉手山
伯太姫神社
天王祠
名産菖蒲
博多川
國見丘
玉ノ井
壙窩
鎮守
安福寺
曼荼羅堂
鐘樓
伯太彦神社
慶長戰場
枯栖岳
原溪
本堂
經堂
尾州公廟
躰燭尾

神賀美神社
壺井權現
鎮守
大黒寺
壺井水
上社
通法寺
頼義魂舎
大黒石

奥田忠一墓
國分廢寺
春日神祠

休
細



田
つ
あ

應
神
天
皇
陵

應
神
天
皇
陵



富
宗
社

河
三
貳

古市郡

東南石川郡の界に接し西と丹波郡の界と接し北と安芸志紀と

長野山與田八幡宮

譽田村小あり傍院十五宇祀家十三宇神五五人

本社

五座を併く譽田八幡宮中神

權殿

北の方に未社南の方に武内臣

本地堂

護國寺中神を真言宗本尊阿彌陀佛を安置し定朝作

觀音堂

聖徳太子神作の十一面觀音

藥師堂

多寶塔址大降堂址

阿彌陀堂

定朝作の阿彌陀佛を安置

辨財天祠

東の方池の中邊あり

蛇文字石

得し其の光ふ忍れく地迹去り其跡の石上小血し

綾杉

關加丹の龍池

龍池

王瓜動法乃時は池小善女

河三ノ四

應神天皇陵

惠我藻伏山周陵也群を社家刑林老人曰御廟陵也

寶殿を建外側少も六角の塗漆

ありけ本を植く石燈二十基

計花右小櫻を植く赤土壺山陵小多く埋む一説

れ吉松繁葉赤土壺山陵小多く埋む一説

用を傷くく山陵の崩れ

日本紀云

譽田天皇影彦天皇

長足尊生於天紫之

冬十二月進士聖表有

立為皇太子初天皇

韓既產之完生腕上其

雄一裝年春二月甲午朔

夫は山陵を人皇十六代の帝

應神天皇の玉體公藏奉所なり

天皇大和國高市郡橿原輕爲豐明宮小皇居一移以御在位四括
を奉聖壽百十歳にして同濟宇四括一奉の春二月十五日崩御小津遺詔
により長野の山陵小藏を以て小津父仲哀天皇小津宇三韓より救百萬
騎もて奉朝へ政奉る 天皇 五萬騎を引率し穴戸國豐浦宮小劫死異
賊退治の軍議あり三韓の大將塵論より者黒雲小棄して日幸小りり
人民を救ふ奉救より其時奉安倍高九分九分従く武内弓矢副將
少して自濟弓矢取箭を射く射させ給へい忽塵輪が首以射斬きて亡ひ
小あり其毒氣五體小恙ありて小濟壽も危く皇妃神功皇后小勅して
曰汝大將軍より異國に退封せよ一胎内小妊一い志子なれを降
誕の後正しく實祐小即べして遺詔ありて同濟宇九年二月六日
聖壽五十二歳にして筑紫橿原宮より崩御小皇后は育小保く
三韓退治の爲小救方の軍勢と奉異邦小おとしらぬ其時白髮の
老翁名く皇后小津休侍る門司國に遷り香椎の邊に所小

着せ給ふの老翁申りる鹿角と云ふ安曇磯良也申りるあり
海中に久しく棲く案内弓矢召る者なれを初弓矢召て龍宮小
此より干珠満珠名を顯を龍王小得少いこれと云ひて三韓
退討ありは勝利疑ひねしを奉皇太后諾しやいさう磯良弓矢
何として召べさや翁云は奉海波と申舞樂を特小愛しより
海上小舞舞を構く舞しめ給り磯良速小奉るべし即供奉
の人々に喜樂瓜奏させ翁舞少くは磯良與小奉して奉奉久く
海中小生りれを與小を賜抱ふどもや小付て津衣を神あて
顔瓜鷹い龜小のりて奉奉其より磯良案内者よりて皇后も
津妹豊姫を使しして遣されり奉奉を竟王よりりの兩顯瓜持給
られりる皇后則四十八艘の軍船を撰して異域小渡りて歌詠追く
漕寄させまげ干珠海上一投へ久を漫々く潮水は變珠
に入る陸路のめし三韓の軍勢何れ思ふもねく悉知と下て

倭船を同敷く切てのふ其間不敵を業ひ多し相圖瓜とのく
満珠公海上へ投入多人を潮水初百倍して四方より漏れれ三
韓の軍勢潰さ次溺死して異國に安く候し後むかの國日本
國に渡ひく永く年々調貢を奉るは亦昂老翁を佐右神
りく地神五代鷓鴣草昔不合尊の清事之又磯良也やの若陸
少て麻呂明神大和少く春日の神即武甕槌命之皇后筑紫に
清凱陣ましく十二月四日辛卯日小 應神天皇降誕し終る放小
今小終く卯日縁日とい 仲哀天皇の皇后大仲姫の皇子麿坂
忍熊の二王子皇后筑紫人等侍りけり武内臣志子と抱きて
南海より紀伊國小郡皇の二王子と皇后やちく也減し先帝やち
清遺勅小よりく清平二十一年と申小即位し清治世六十九年
聖孝二百と申れ大和國高市郡磐余稚櫻宮少く崩し小皇子ハ
四葉にしく皇太子小立せ給ひ清和七十一歳と申小即位小編り

應神天皇少申す 仲哀帝弟四皇子治世四十一年妃八人男女の
清子十九人ハ清代小初く文字りり衣裳を織縫志ける事終りや
狂島豊明宮少て崩れい遂不尚山崩しす 朕后 欽明帝清平
二十年二月十五日行幸ありて一七日崩死し終る即八幡宮神
倭法現ト天皇小龍宣多し 聖徳太子十六歳の清時守屋逆治
の為七日崩死し 靈験ありり朝敵公亡し終る役小角も亦入唐
史新記し 文武帝大寶元年四月八日より一七日崩死あれを
其満るる少小崑崙の玉も磨され珠小あり次蓬萊の菜も掌
ごとく益かき也示現あり又信正仍基もく小終りて 元徳中乃
勅をうけく四十九院を成就し又弘法大師も天長三年四月十八日
吉布郷西林寺より一夏の間に小治して三密の観念公あり一歴
坐禪の扉もゆかんとす 曠方小僧老伴ありて多小錫杖をつれ
て迦陵の清声 鮮小大師に告く曰

歸命金剛秘密佛 靈智令法久住世
為度末世諸衆生 世間出世利群生
誓首八幡大菩薩 示現神通度衆生
斷除十惡為十善 覆護衆生能與樂

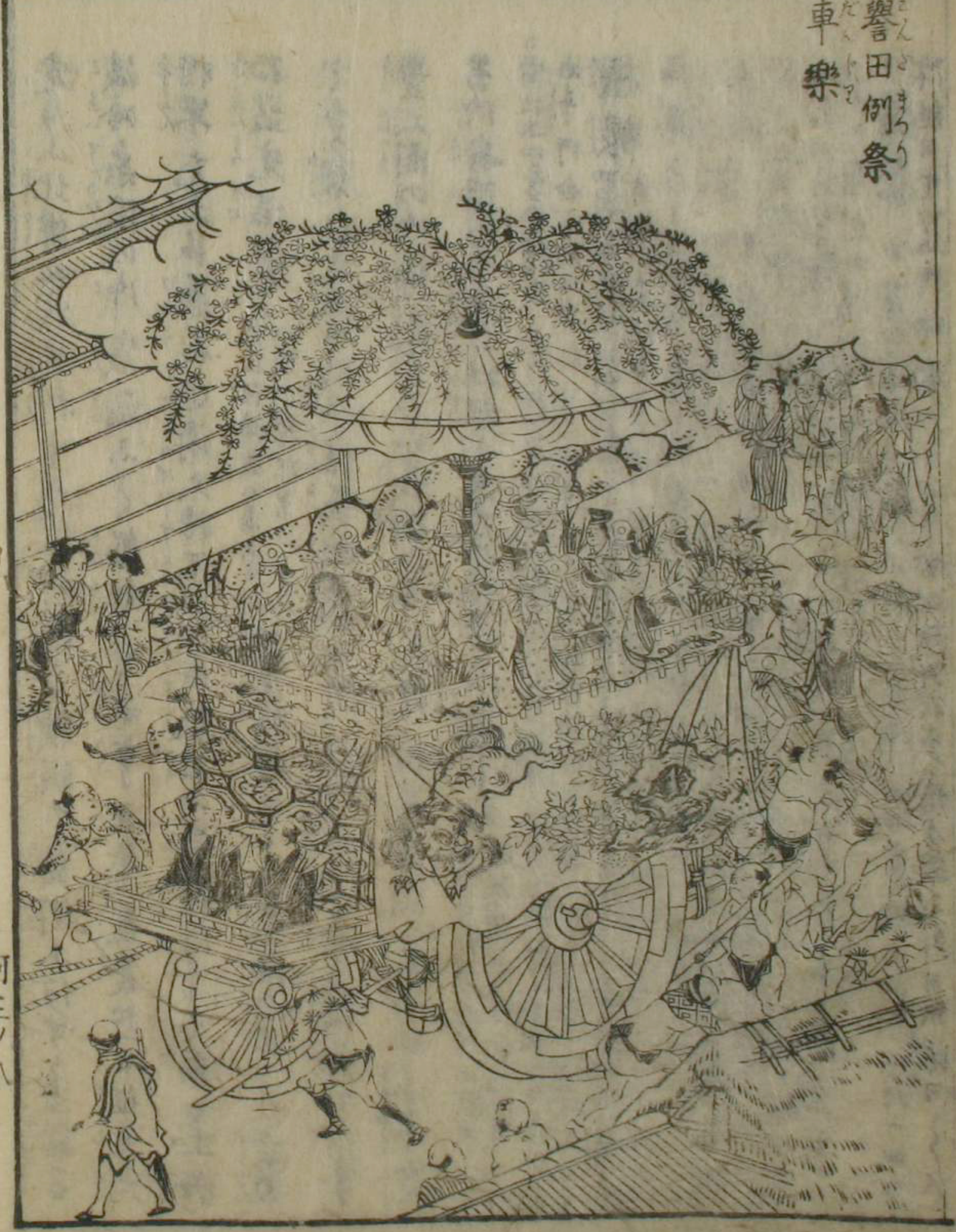
天長五年天下大旱魃を淳和帝の詔を蒙りて六月朔日より一七日
祈夜を修法し終ふ不忽若女龍王八大竜神現して眉雨降りし
又仁和二年四月十日菅丞相道明寺小部を以て附安社小春菰を以て
は神童を人社檀より現れ寶劍を授けり今筑紫安樂寺小部あり
也形人其後後冷泉院清宇示現ありて清廟帝の宮殿を改築南へ
去事を所許ありて嚴室小清源補し終ひ大正天皇藤原岩の宮殿
とあり又每歲十二月吉日とありて諸の山陵へ荷茶の官幣紙
を奉り奉延喜式公事根源等小見えり右大將賴朝卿
建久七年小社頭伽藍新小造営ありて清神領方四十町也

定め北條五代足利十五代相續く賴朝の舊例小位等も亦額を
後冷泉院の清宸翰より縁起を永享五年孟夏廿一日征夷大
將軍大居士兼右近衛大將足利義教公の墨蹟ありて画を土佐
右監光信より已上社傳或は愚童訓星霜移りて東海の三ノ久菜田
やまの郷に天正の以平信長朝臣四十町の神領と悉く没收せり
豊大閣の時時貳百石の喜捨あり其後將軍家國初の清時小春貢
等清寄附あり委に社説不見くされいふ畧しぬ今の境地方五町小代々
將軍御茶印の社領有
○當社小四季の神事あり三月十四日月夜をうけく曲物ふあを入三振小田原の年中の
水半何合と知る是祓宣の役なり又二月和印日種々の神供を持つて法あり
檀輦四月八日の真砂あり三韓退治を志す例あり日奉檀輦のたゞ先よりや
隔年ありて又三々年の儀あり老支難が難放りあり
放生會例年八月八日より神式始り十四日寅の上刻小神樂を興院へ神
聖十五日午奉り本社小遷清りし守り神供のたゞくありて神祕の祭
式社人の守護し神子あり神樂孤奏をむりし舞舞樂あり
十一月初卯日宵宮より清湯を持つて是神祕の祭式と云ふ十二月十四日
降誕日也り小清神事あり産舎孤務の羽をて作ら故不卯日孤縁日と云

えんたの車樂の
 古風ありく
 外の賑はら
 遠くこれ
 だんトこの
 始りん
 とぞ



響田例祭
 車樂



譽田宮神寶

額後冷泉院當社傳記詞書足利六代將軍普光院義教公繪之

後西院時因裏不能存存神神公命せし尚寛文六年將軍家

御馬鞍賴朝公寄進鉤鏡已上四種建久七年當社御弓以上佳古より作りて

御矢利劍御鉾琴琵琶神鏡瓶子神蓋

太刀栗田口藤馬允利劍大原納曾利面聖徳太子大左鼓

庭幡龍頭足利十代義植公寄附書狀數通豊臣秀吉公

堆朱盆秀忠公寄附雪月花一軸大樹家光公山姥面家光公

散手一面二舞二面貴徳一面信貴一面天童一面勸進僧一面陵王一面

退走徳一面還城樂一面俱小法橋退宿徳四面内三面律師淨真作

翁面乙御前三箇月面日光鷲繪徽宗皇帝鐘元朝頰輝

百馬画趙子昂花亭書畫明相國臺軍鑑大星漢家景風本

神功皇后尊影酒井真人應神天皇法橋住持太刀高富

五色鏡水晶三角王硯一面号明花生一瓶青磁香爐

雲号盆号堆朱香合号屈輪龍文錢和同新圖縁起

五卷大橋哥徳歌尊通親王大自在王菩薩影空海自佛舍利

重政筆青色一粒八祖相五銘三銘獨銘弘法大師閻浮檀金如意輪八分

般若經弘法紺紙金泥法華經文滿天神愛深明王弘法大師

三尊種子曼荼羅中將不勤明王智證大師兩界曼荼羅

理源大師釋迦羅漢宋朝僧涅槃像古法眼弘法大師影真如觀三

納袈裟高屋城王島山尾張守寄進右の外神寶多しといふもろろ小暗き又傳來の神書寶庫にあり社傳

奥院寶器

大自在王菩薩尊影聖徳太子佛舍利一粒釋尊十六善神弘法大師

興正菩薩影自作十六羅漢住僧教也書翰二通秀吉公

地藏尊

本堂不安重に菅野相の淨化長式尺三寸

觀音堂

本堂の東にあり安河孫の住持正觀長式安尺

塔

塔の東にあり真柱の古礎小形も計を

明星水

觀音堂の良ありり 龍池 南の方あり備ふ

欽明天皇十三年冬十月百濟國聖明王釋迦の金像幡蓋

經論若干紙將來して帝に獻して曰丈佛法と申ハ諸法也

中ノ最殊勝の道あり周公孔子も奥意依悖る事能く吾群生

と利して功德無量之初天皇よりゆく震且を流通して三韓も亦

崇仰 天皇され紙獻聞有て即歡喜踊躍して如是微妙の法を朕

いまさるて聞は侍臣獲我大臣福同宿祿奏達して云今西蕃中

諸邦みかこも公禮に我朝獨豈これ小背ん哉也帝小同意

されも其時物部大連尾與中臣連孫子議奏して曰それ我

國家の天下を天神地祇百八十神弘四時小祈祭して守護

人代小速んでも一千有餘年異國の法を修せしめて國家清平

たるも年萬國也勝たり今更西蕃の神弘祭を一日も忘る

我國神の怒あらん中遮く奏達しこれを天皇佛像と福同宿祿

賜ふ獲我大臣祈悦して小墾田家小安重其後向原の教を寺や

祈して向原寺と号は已上年祭積りて 聖武帝の所命也大

寺の監真和尚より弘修補して又弘法大師もこう止棲して弘

其後建長六年の去又西大寺興正菩薩再興して律宗の淨刹や

かゝり昔日古對境度大なり七堂伽藍僧坊魏々寺屋世六町

あり舊圖小見へり中古駿擾の患小罹る今の如く此後今や

祈る寺小弘安四年の文政官符あり又興國年中此國室教章弘

安應永年間將家乃預文文永中の流記教通藏む其外什寶

教種ありり小畧見へり 寺説元尊釋書小

玉碗 蓋山の什寶之巨四寸深サ式寸八分巡り一面小星の如く 大形

安和天皇陵の土砂崩れ落く其中より赤土など多く出てその下に石室あり
知るに其地を村内田中何某やのへ農家の持地なり當ち小藏也

太政官符曰

太政官牒河内國西琳寺

已下全文省畧採要文

雜事卷箇條

一應停止四至内殺生事

四至

東限飛鳥庄

依為太子御廟四至内
下官符被止殺生

南限岐子庄

依為山門西塔領
往代禁斷殺生

西限尺度庄

依為根本法花堂領
往代禁斷殺生

北限譽田陵

依為大菩薩聖廟
下官符被止殺生

上文畧

仁祠也

草創年舊先於天王寺三十箇廻
花構猶新不侵風火水七百餘歲古今奇端不

可勝計其中女人入金堂之時地忽破裂盜賊
偷銅像之夜天變白晝勝絕之趣翰墨難摹持
律成群三衣一鉢之支雖乏行業積年天長地
久之勤無怠加之西多青塚皆為上古帝后之
陵廟南有靈岫則留聖德之芳骨旁見地勢不
便殺戮矧乎寺邊二里之殺生者聖主累代之
禁遏哉因茲且任上官之記文依知識之誘引
士民同心雖停殺生權門之後都不釵用或黜
諸廟而為狩獵之場或上一河而為釣漁之憂
無慚之至何不炳誠望請聖斷永停止四至内
殺生之旨被下者者弥仰聖化奉祈寶祚者
正一行大納言源朝臣定實宣奉勅依請者

弘安四年五月廿六日

弘安者鎌倉將軍惟康親王之時也全非大内裏之時
此外二箇條之官符二通畧之同年號也



帝堂

花寄所と
訪入

水車

かゝの実地
ふらりかたき山径の
友しやうふ
おくほくきま

花寄所



駒谷
金剛輪寺

皇土金

天照大神

皇土金

駒ヶ谷 駒ヶ谷村古市(新八町)ありて遠くより之和街通行内味

未り駒ヶ谷の里に古市ありて遠くより之和街通行内味

駒ヶ谷の里に古市ありて遠くより之和街通行内味

駒ヶ谷の里に古市ありて遠くより之和街通行内味

駒ヶ谷の里に古市ありて遠くより之和街通行内味

杜本神社 駒ヶ谷金剛輪寺の上あり 温知隨筆 載神名帳

香取 明神 杜本神社 二座 齋大 人神 津主 命 俗 忌 日

布都 努志 命 十四世 孫 伊波 別 命 之後也 羽作 忌 日

金剛輪寺 覺峰 師云 人皇 十代の 頃 香取 命 之後也 羽作 忌 日

別命 杜本神社 杜本神社 杜本神社 杜本神社 杜本神社

延喜式云 杜本神社 二座 並テ名神 大月次 新嘗

同書内 藏寮式曰 杜本神社 二座 並テ名神 大月次 新嘗

備幣物等 使等進 發入幣物 並使裝束 見式

杜本神社 二座 並テ名神 大月次 新嘗

貞觀元年正月廿七日 奉授河内國杜本神社正

四位下 公事根源曰 四月上 申日 河内國小侍 杜本神社の系之年日使之

十六山金剛輪寺 駒ヶ谷山中にあり 安養院に歸ん

本尊釋迦佛 長尺五寸 藥師佛 辨財天女 俱小聖德王の

十一面觀音 補正戒の念持佛 ありて赤坂 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜

寫 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜

神 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜

寶 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜

聖 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜

靈 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜

當山 現任 阿闍梨 覺峰 師 諱 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜

四世 孫 實 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜

歸 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜 齋院の時 靈驗 瓜

秋櫻ふ山公下らば後藤不遊りて古蹟を致すと教は其後助力かきりて

夫此山寺と古刹ありて中頃兵燹の災此後僅の丈室維摩

可居小比一室十笏孤得しり常小幽香を帯て禪龕を

めぐり山水月小和して僧厨小入寂奠する鐘磬の音茶候

孤避く三業を貫れ顯密の日四げ長閑ありて十住心花を

白ひ鮮くむしり一室子麻戸驛の駒小御しり中四海を光り

見倍ふ小比地帯雲漢くゆりて立界系是靈域こそ 詔を

蒙りて梵園公創し一錫く十六山安養院とて蓋此やとわふ

帝王后妃の陵墓累々ゆりて四々双なり 因是山號とて時

人と迫り飛鳥の清寺とも堂匠とめや年暮法と契く

後醍醐帝此御宇世上秘するされば天下清平御禱乃たため宸

衷御製公藏免ゆ小南朝 後村と院より金剛輪寺中勅し

以て於津國曹登座公寄る繪有國宣も信る二條為明卿の

秋書もあり何れも古苑仍上人の肖像餘外什寶奇也教く傳ふ

寺前ふ蘇永子墓清が純言此古墳棟正成塔あり風景と東

のいごをる此飛鳥里近く前ふと測り瀬あり飛鳥川乃年の渡

登くまきと暮ら曙やしく小嶺の松の尾足杉の梅白ひ若く純言

清く和み石門の流涼しく夏暮る依筆飛く小景乃陰ありて

郭公中一聲孤曉の月小待俛ひ又秋の野原と風を凜々

吹ももんく空鳴つ是夕露定く萩咲女郎花みりて中

枕さうと然ぬさりしこれ暮とふもあられをの香涼く桐も

火ぬよりて観念の便ありありまありけふと景室のさぬ實小唐乃

沈佳期が咏しり紅樓院ももいつ角こそこのり

楠正成塔 院中ありて若老寺中鶴はは湯婆造立の刻支鏡和田正遠が

一編を信達ひ清寺内せり桑原ももも物しり判官殿中陰を

今おおぬれ就支於貴寺の碑お建り夜も若愚息沙活中し海共

十六山家藏之品々

日谷稚宮之碑

竪壹尺叁寸 横八寸

伊波別命

腹 瑞齒別天皇

袁登賣命

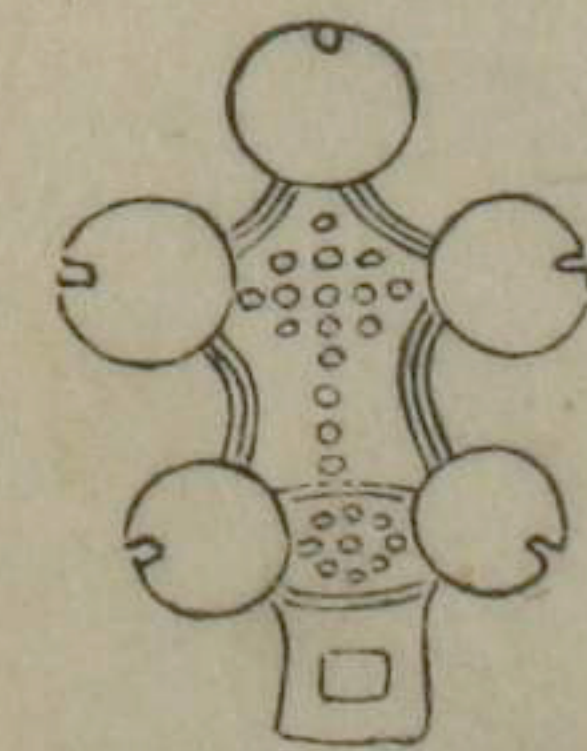
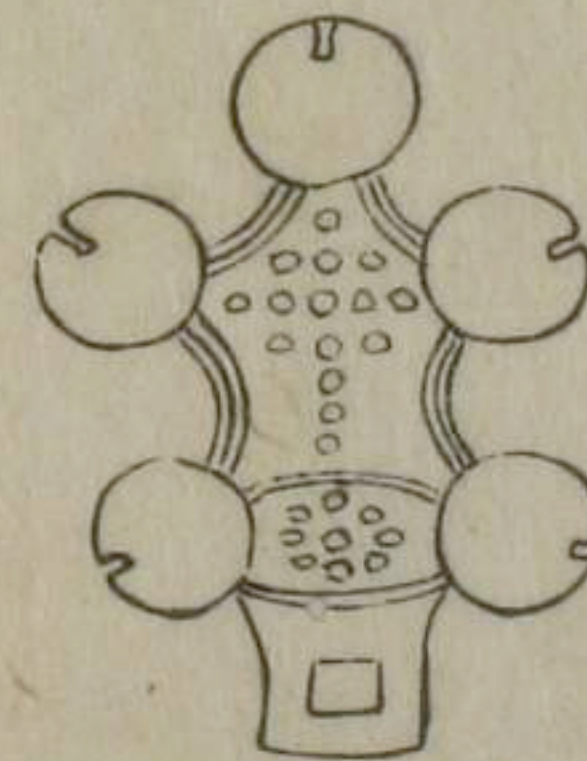
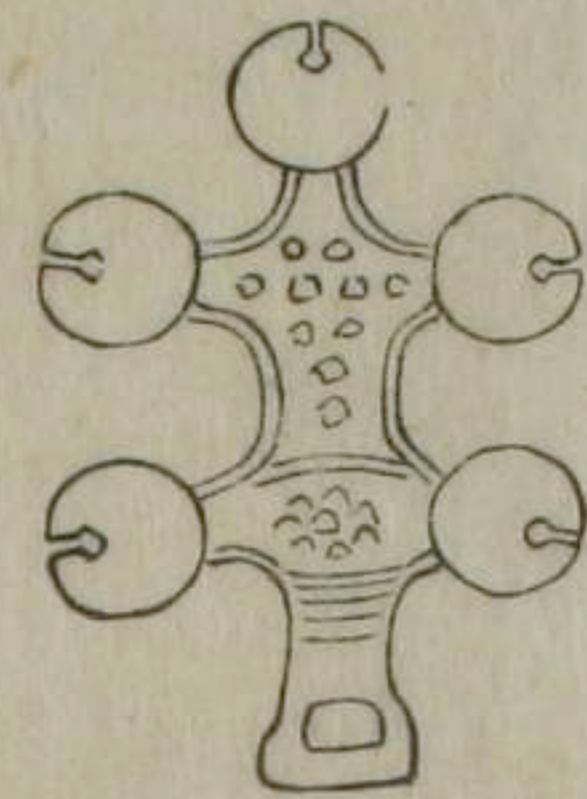
背

維日谷稚宮者

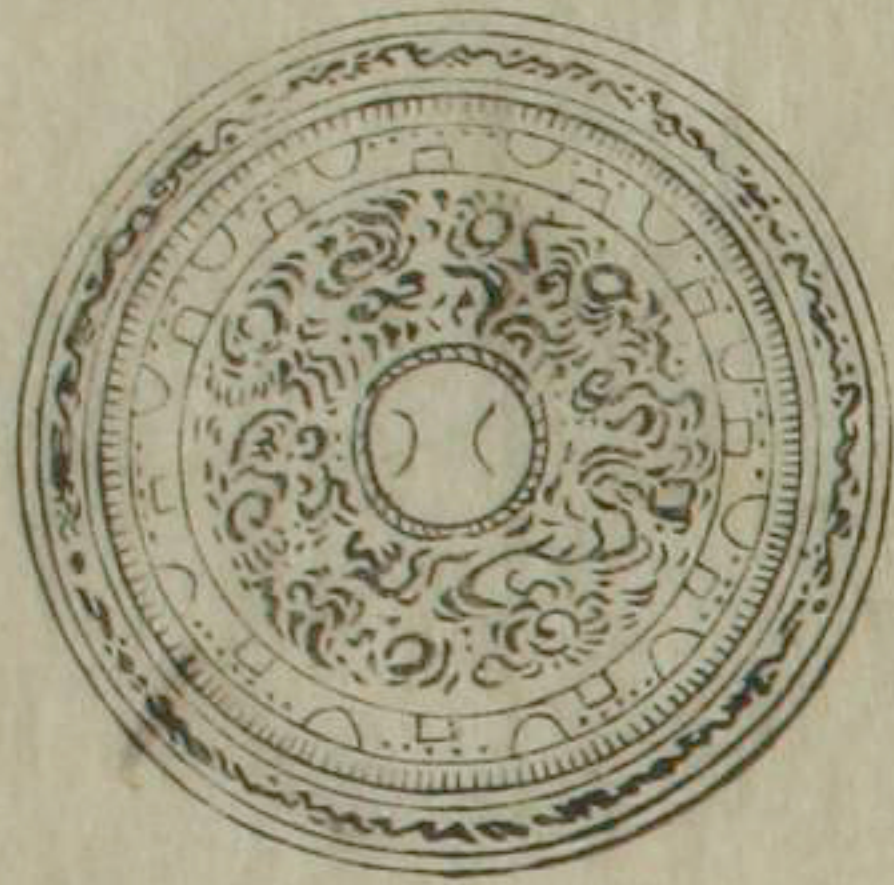
反正天皇一夜

被禊之旧蹟也

古鈴之圖

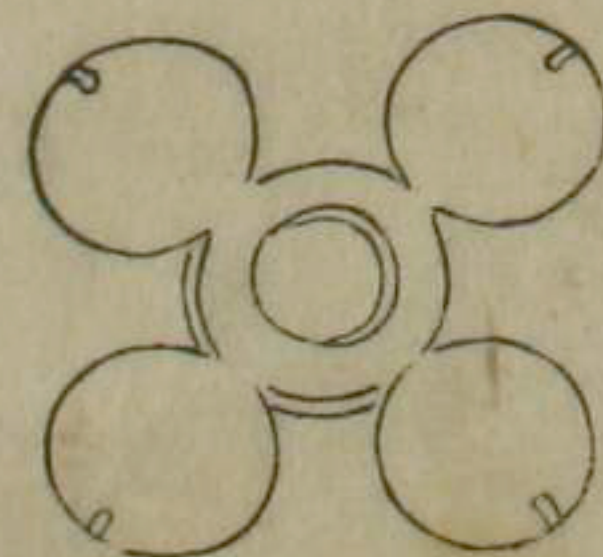
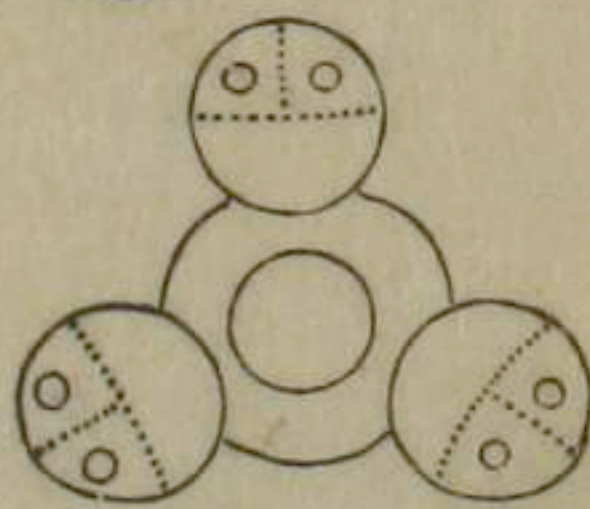
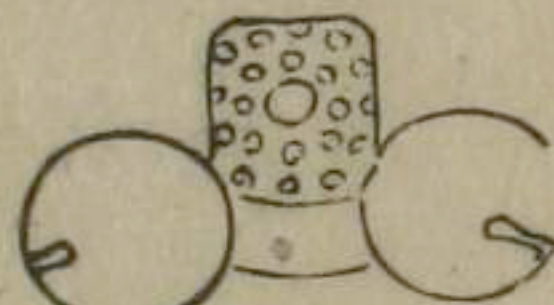
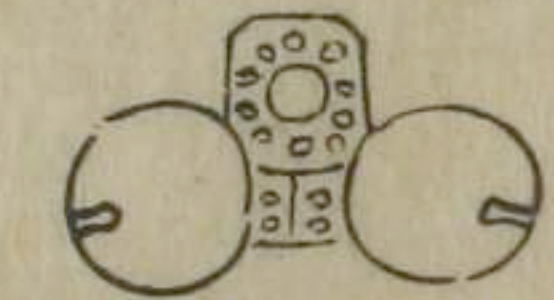
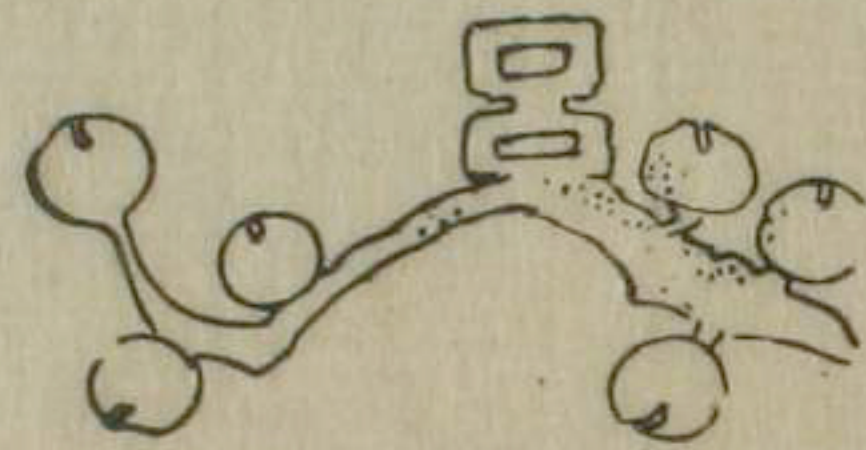
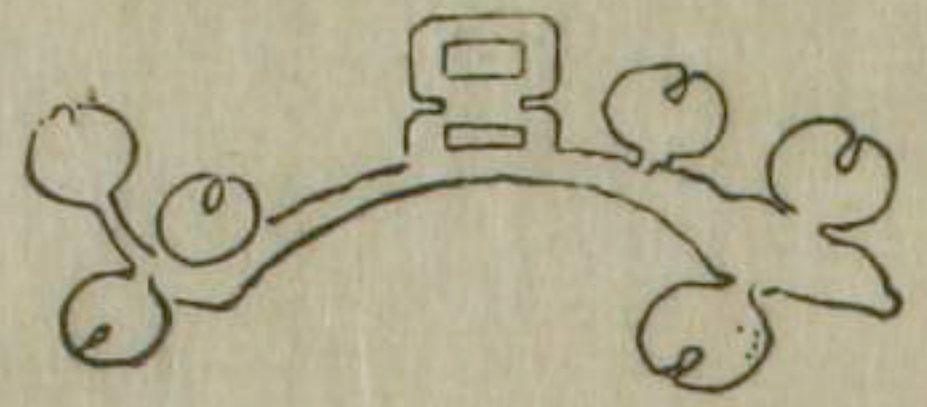


古鏡



高二尺二寸
横三尺八寸

碑趺共自然石也



其二 土鏡 七寸九分



表

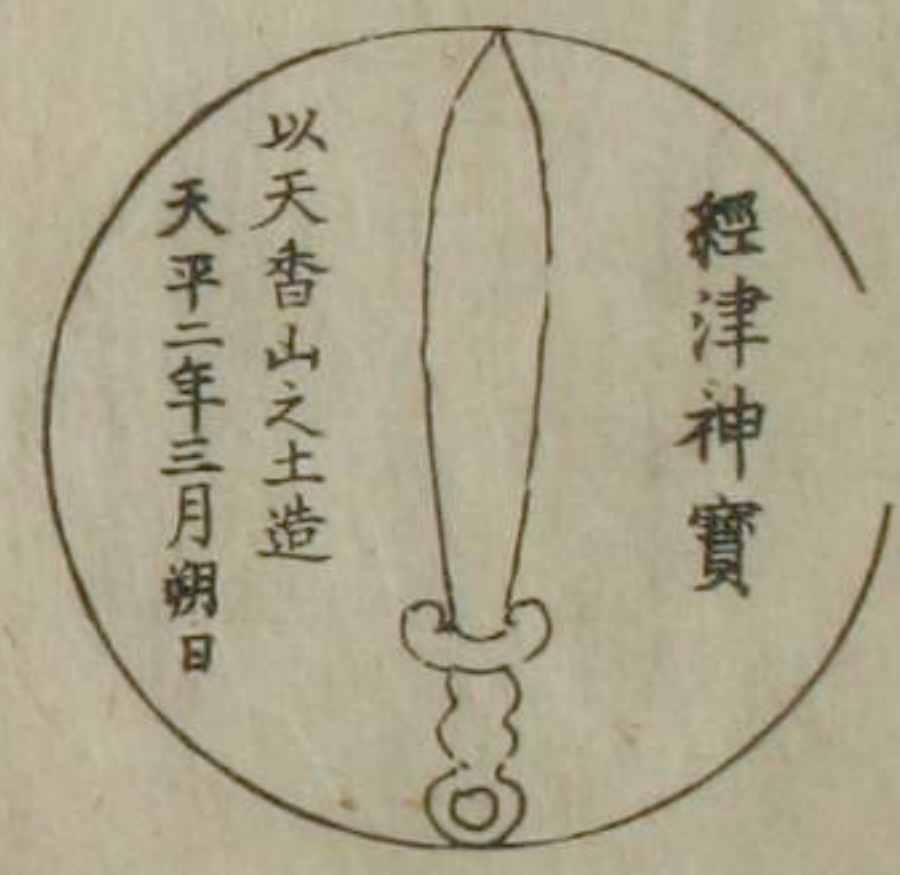
裏



表

裏

古瓦四品



經津神寶

以天香山之土造
天平二年三月朔日



經津神寶

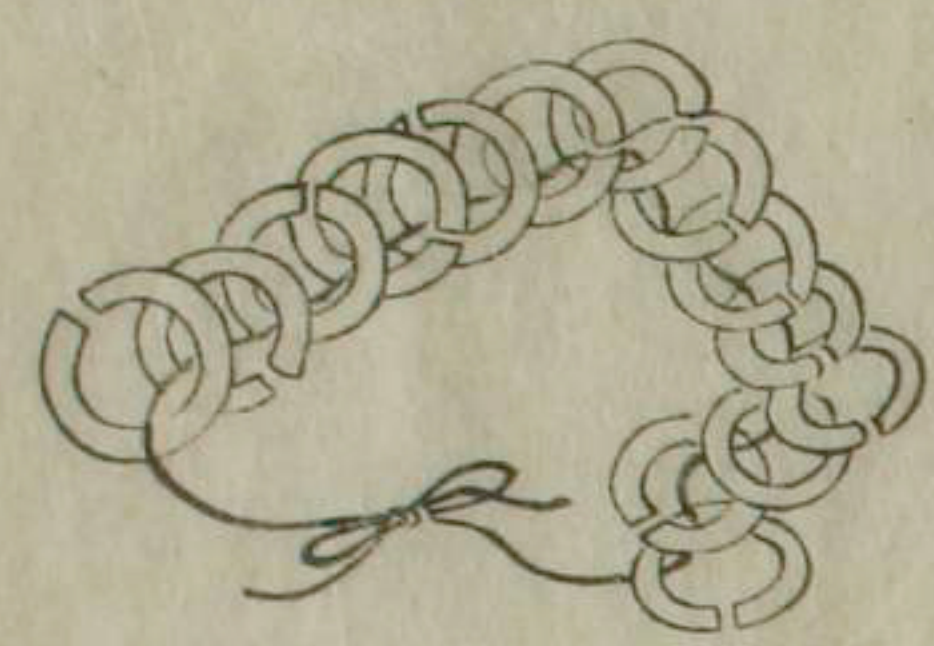
天平二年三月三日
矢作連

布目有

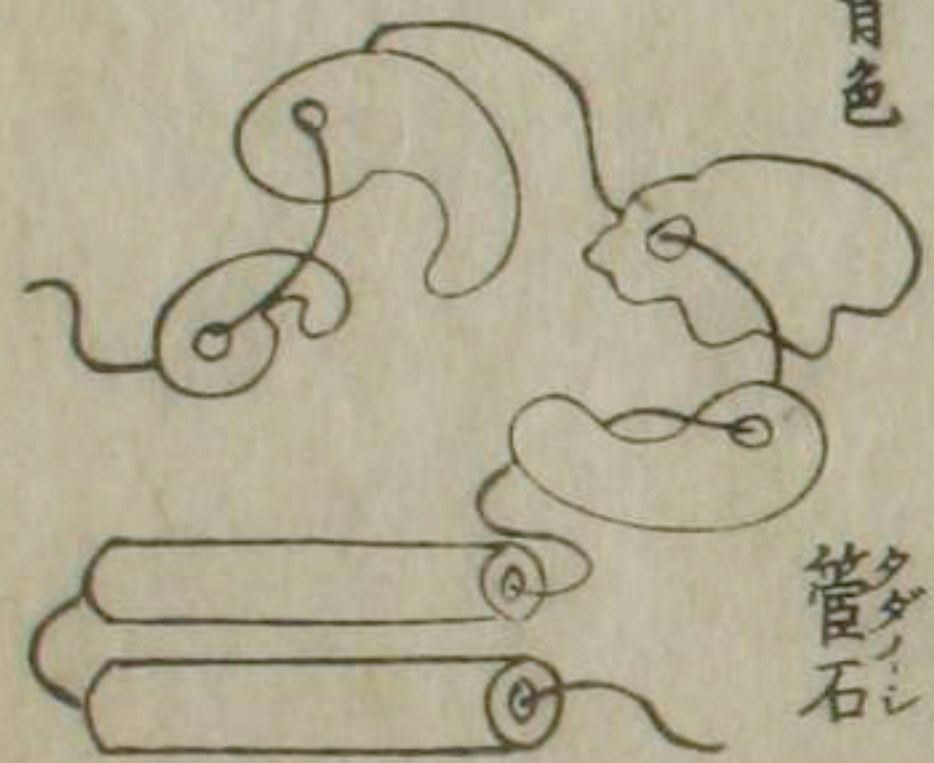
劔 各長壹尺七寸六分半



金環 十五个 徑七八分



青色



白玉 七个
管石 七个

古鏡 二面有 長八寸



飛鳥山 飛鳥村の上の方あり履中記ふ

飛鳥川 飛鳥山より流るる飛鳥川の北一代集に八十五首あり

飛鳥神社 飛鳥山に神社遠飛鳥宮の古跡飛鳥川の和舟十餘首

大和名所圖會にあり其餘は推して

あそく風河者更きたをやめれ神ふ委めるまれよの月

飛鳥戸神社 飛鳥村あり延喜式小安宿郡に属せ名神大月次

十月列子官社元慶四年賜田一町元春祭費二乃

縁氏人主税助等所奏云云今牛頭天皇と稱れは所の

生土神として例皇九月九日宮寺と常林寺なり

麻笈田丸古蹟 飛鳥の宮寺常林寺を元亨釋書曰麻笈田丸

出象して智光法師とて一夜誅陀の靈愛を

其圖南都元興寺ありと云

飛鳥假宮 飛鳥村をり我鳥小仲皇子孤殺せや令

飛鳥川 飛鳥川に流るる飛鳥川に流るる

古事紀曰 皇弟水齒別命既平難波之亂上幸於倭之時

到大坂山口以爲難人曾其功可謂無信既行

其信還惶其情故欲報其功而誅其身乃造假

宮於山旦賜準人以此可先賞位令百官拜爲豐樂

之詔以大歡宴畢令勇士罪斬之取明日上幸

大郡於賀美神社 大黒村あり延喜式石川郡に屬し今山王と稱れ

大黒寺 中真密山和尚

本尊大黒天 腹内不安を治す

法を授け優婆塞道を修す其上胎金支那の密法は

石川に流るる飛鳥川の流るる

石川に流るる飛鳥川の流るる

石川に流るる飛鳥川の流るる

石川に流るる飛鳥川の流るる

石川に流るる飛鳥川の流るる



八王子権現

頼朝塔

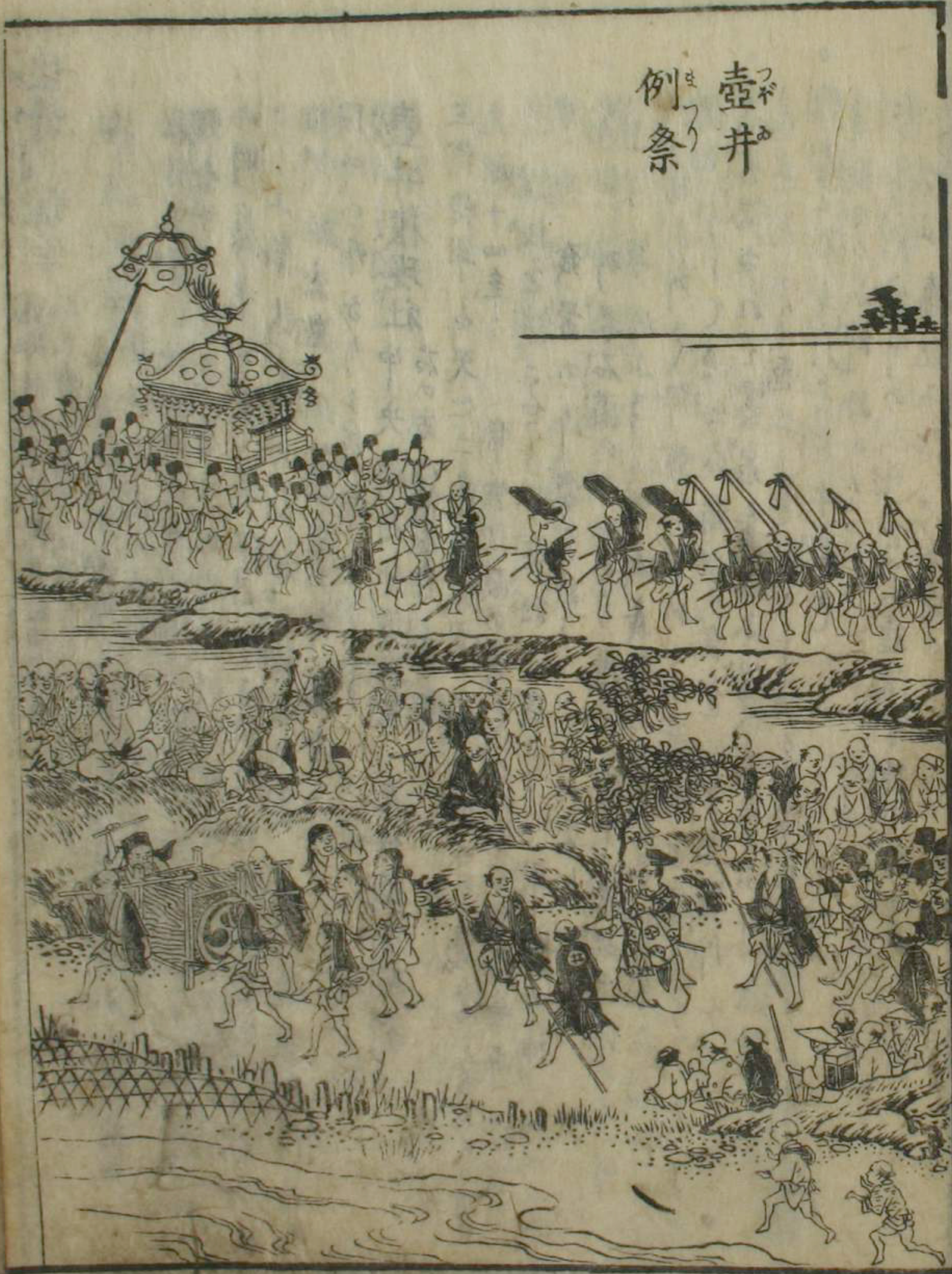


おんろ
大黒寺

河三ノ上



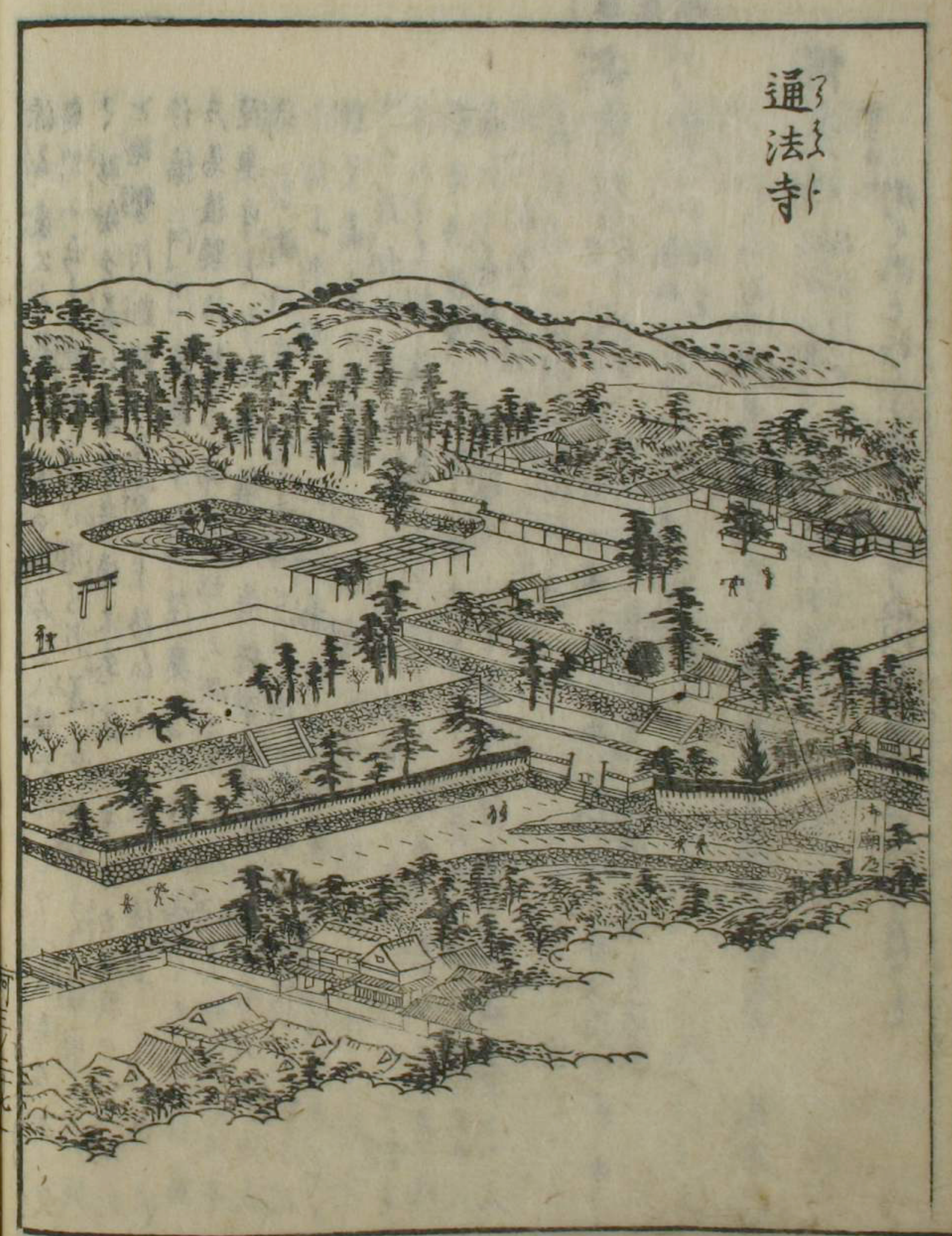
壺井例祭



當社の例系と孫生二百年の初より神樂三基清祿所（波清あり）
 初より鞍猿田彦神八本の鉾三張の弓箒を刀禮金蓋三柄神供の唐
 櫃供奉の社勢を奉養不棄と歳事不列を祀し其外社家のめんく神樂
 乙女神人宮仕等前後供養し石川河原の芝生四阿屋松志門らひ是と
 清祿所よりてあるわじし年によりて洪水ありよりて延享年中より
 神社の西の方義家公に神廟のわたりに改ま居原此地を源家三代武將忠
 居城よりて河内列を任國之故八幡宮公勸請し二代の墳塋も近隣あり
 又むり化輪寺より浄刹ありこれを頼義公奥州征伐の時歿身方亡年
 公遺骸の爲不建られ本寺より慈覺大師の化より阿弥陀佛と安んじ後世廢
 寺を移りて化輪寺救金堂芝をか圃の字を移りぬ漸本寺より廢し之より
 壺井の什寶と移りぬは色みか一雙の地ありて源家の領也見えたり
 後いぬくやかりて麻姑の桑海を見ゆ所不詳し
 石丸山通法寺 通法寺村あり宗有真言新義
 和別長谷寺小属れ

河三ノ二五

本寺阿弥陀佛 觀音勢至の二尊冠輦也
 長三尺許 本堂小舎也
 不動尊 智證大師也
 長六尺 十一面觀音 長六尺許
 右の尊像元禄年中 常憲院殿清寺附
 觀音堂 本寺千手觀音 長五尺許 源頼義公感得
 又小舎親者令洞佛あり 頼義公甲の内小安坐の臺也
 鎮守 天照右神 八幡
 上ノ社 稻荷の三尊公あり
 當山法會七月十七日十八日
 頼義公魂舎 觀音堂の中
 頼信公墳 本堂の異
 二所詳あり 義家公墳 頼信公墳より五所并
 奧あり
 當山と初河内守源頼信公の館舎あり長子頼義公相傳し之より
 居候し終ふ終ふ此地の東北に海上人の舊跡ありて仁海若と名ふ
 ある時其谷より光明赫々として諸人奇異の心ひ瓜るれ頼義公
 靈光の原を尋ひ終ひし日大悲の靈像ありしれ則長久巳年
 九月に感得し終ひく城中より一宇に精舎を建營して通法寺
 中碑を此所不詳し八幡を即義家公賀茂次郎新羅





王手山安福寺

王手村あり浄土宗真宗御
洛東知恩寺小殿を常行念佛を修る

本尊阿弥陀佛

惠心傍都住座依長丈六
彫檀弥勒三尊慈覺大師也

瑞龍院殿

二品前亞相天蓮社順譽源正大居士
神牌を安んず

經堂

寶冠弥勒を安んず
龍眼肉樹 境内にあり

壽世堂

行者堂 後り者も聖堂を修也
又令洞の虚空藏を安んず

國見丘

山絶勝の地く所の多を龍波の萬戸
所城川遊々

船之松

曼陀羅堂 先づり小千神佛を修
又石の巖あり

尾州御廟

彌信のゆかり 石殿二十間斗
左右小石燈あり

岡山堂

開山阿彌和尙 玉井 岡山塔の
あり又嵩山の巖小

鎮守

三天山にあり 每射天毘沙門天
鐘堂 庫裏のあり

當山

と原古寺にして 行基大士宗創
く年久しく荒廢

と只一字の竹庵はありと村老これ瓜守侍と小珂憶和尙也

りあり 表那の庵ありて里見義勝と云婦を湯園右衛門の女あり園左衛門元和元年

に府靈巖上人法脈の玄孫にして日表年瓜累と習学し諸國

行脚の時寛文年中此地未だ微妙の靈域なりとて官小許と得く

佛屋松關と浄土宗流の精舎なりと嵩山園基と銘其以尾州亞相光友卿

和尙を瑞依し給ひ佛牙舍利三國無双曼陀羅名跡寺因若干と副く

家附しや小周是堂舎巖重小建營あり當寺を 聖徳太子の時

寺院の建方北風俗にして高梁依り柱極とく地の高小橋とて

暴風小倒し尺萬世不易と云今この世小これを珂憶建中いん凡也

と一眼の中に山あり川あり堂あり宮あり城あり岩あり海面に遊小

見へりて河内一列の名勝也

王手山

安福寺境内にあり東の山とて山頂小靈泉あり

壙窩

山中二十餘箇所あり小大ありて



安福寺
門前



牛頭王

山ノ口

ホラ穴

玉柳

玉手山
本堂



河三十一

伯太彦神社

登延喜式出天安二年二月額官社云云
安福寺の法皇より今半額天王堂移入玉子の生土神より
例系九月八日は色願瀨多ありて云々

伯太彦神社

登延喜式出天安二年二月額官社云云
額明村小あり今句山権現と稱れ

奥田忠一墓

河内福云大坂軍の寄子奥田三郎左衛門
忠一討死の石塔あり同家子井上四郎兵衛神子四郎

慶長戰場

六月後藤基次薄田兼相兵を斬り出致を仙臺
家臣戸倉小十郎を討つ武器出羽板重張を斬り獲る也
今此處の土中より武器出羽板重張を斬り獲る也
田圃の中より出羽板重張を斬り獲る也

春日神祠

田舎村小あり又岩窟小
天王祠 額分村小あり

國分廢寺

額分村舊蹟小石像の庇藏あり延喜式云國分寺軒一寺
今觀音堂あり弘法大師作の正觀音を安ん長を尺寸

枯栖岳

東南にあり 原溪 原山を原と大和川に入る

名産菖蒲

安福一郡より出る 依着小集る

河内名所圖會卷之三終

らんがき
はるがき



河内名所圖會卷之三終

